

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成 21 年 3 月 28 日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 15 時 30 分
訪問先事業所名 (都道府県)	優華 グループホーム 戸次の里 (大分県)
評価調査員の氏名	氏名 <u>鈴木 達也・前田 隆枝</u>
	氏名 <u>野田 敏美</u>
事業所側対応者	職名 <u>施設長</u> <u>管理者</u> <u>リーダー</u>
	氏名 <u>山下 雄三</u> <u>中川差得子</u> <u>河村 春樹</u> ヒアリングを行った職員数 (3)人

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成 21年 4月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4490100148
法人名	株式会社 優華
事業所名	優華 グループホーム 戸次の里
所在地	大分県大分市大字中戸次4287番地 (電話) 097-587-7600

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構
所在地	大分県大分市顕徳町2丁目1番5号
訪問調査日	2009/3/28

【情報提供票より】(21年 3月 9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年 10月 9日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 15 人, 非常勤 人, 常勤換算 15 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(180,000 円) 部屋の原状回復	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要(3月 9日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	1 名		
年齢	平均 82.8 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人財団 天心堂
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. 理念に掲げた「家庭的な環境」を大切に考えている。隣接する菜園を活用し、入居者と共に野菜などを植え・世話をし、その収穫物を味わうなど、ホーム全体に和やかな環境が形成されており、余暇などのコミュニケーションも充分にとれている。
2. 個々の入居者の生活環境や立場の違いを十分に考慮している。ファミレスや回転寿司店での食事会の企画を見ても、残された人生を想い出深いものになるように考えて生活させている。
3. 「地域との関わりを大切にしたい」との管理者の意向通りに、ことあるごとにこまめに地域に出向き、広報紙などを通して催事等への参加を積極的に呼びかけている点は高く評価される。ただ障害者の大型施設を含め数多くの施設が集中している立地環境から、当ホームにはまだまだ厳しい現実が予測されるだけに、他施設との違いを鮮明にする運営姿勢が強く望まれる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回は初めての受審です。</p>
	<p>① 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>開設以来初めての評価だけに、意義については深く理解されないまま今回の自己評価は運営者、管理者が中心に行った。問題点の改善に積極的に取り組み、自己評価改善シートを作成し職員全員が質の向上に向けて取り組み情報が共有できることが望まれる</p>
重点項目	<p>② 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>3ヶ月に1回の運営推進会議に、家族・行政・自治会・民生委員等が参加しているが、現状は施設の活動状況連絡会であり、施設サイドを含め会議全体が試行錯誤の状況にあることは否めない。会議の主旨(目的・内容・意義など)をまず施設サイドから再確認し直し、運営推進会議を活かした取り組みが如何に重要であるかの認識に立ち参加者への啓発に努力する必要がある。</p>
重点項目	<p>③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>地元で暮らしていた利用者が多く、家族も近くに住民が多い。職員に対して、家族から愚痴をこぼしてもらえよう関係を築くと指導してきた結果、家族とのコミュニケーションが深く面会も非常に多い上に、長時間居て貰えるようになった。そうした際に家族から出てくる話を拾い上げて、運営に反映させるようにしている。また、行事等でも家族に積極的に参加してもらおう等、運営への参画を働きかけるような取り組みがなされている。</p>
重点項目	<p>④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>設立以来家族との交流に力を注いできたが達成しつつあるので、今後は地域との交流を重要課題と捉えている。しかし、地元には福祉関係施設が多く地域資源との接点は出来上がってしまっていて後発の苦しみを感している。そうした状況の下、広報を郵送で無く持参する、ホーム主催の行事への参加を促す等様々な働きかけを行っている。その結果畑の手伝いに来てくれる等近隣の人たちとの交流も芽生え始めている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	①「家庭的な環境」を大事に考え、日々の実践の中で色々と工夫をしている。 ②「地域住民との交流」を日々考え、努力している実績がありながら、理念にこの項目が掲げられていない。	○	理念の中に「地域住民とのかかわりあいについて」を追加し、今後は地域の中で支えあいながら、地域づくりにも貢献できることを期待したい。
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務室の目立つ所に掲げているが、日々取り組みはなされていない。	○	管理者は、毎日の連絡事項等で、状況に応じて理念について考えるきっかけを提示し、職員一人一人に浸透していくよう、意識しながら日々の活動に取り組んでほしい。
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会や自治会、学校等の諸行事に積極的に関わろうと何度も足を運びPRしようと努力している。交流の長い既存施設がたくさんあり、そこが優先される為、後回しにされるなど当ホームの悲哀は否めないが、近隣住人がボランティアに来る等、ホームに気軽に立ち寄る人が徐々に増えてきている。	○	他施設にない企画性のある催事を通して地道な積み重ねが求められる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に自己・外部評価の意義を理解させておらず、運営者と管理者で最終的に自己評価した点を深く反省している。	○	今後は「改善シート」を作成して、全職員で具体的に改善に取り組む質の向上に向けて取り組んでいくことを期待したい。
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月毎に開催されている会議の現状は、施設の連絡・報告会的な実情であり、会議での協議事項を活かした取り組みレベルに至っていない。	○	施設運営者や管理者が会議の重要性を再認識する必要があり、全職員に対して会議の目的や内容を改めて徹底することから始める必要がある。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、常日頃から連絡や情報交換などを頻繁にとっており、連携も緊密に図っている。行政も繰り返し訪問しており、機会あるごとに施設サイドから積極的に出向いて助言を求める姿勢は評価できる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	年6回発行している広報紙「春夏秋冬」には、入居者の顔写真が鮮明に掲載されており、家族にとっても近況を把握しやすいように心がけている。また健康状態や近況報告も個々に定期的に継続されており、特に24時間対応の面会時間は、高く評価できる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入口に設置しているが苦情箱は一度も投書されたことがない。常時事務室に気軽に立ち寄り、職員がいつでも対応しており、問題発生には即対応がとられるように心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は少なく、職員も家族の一員として接している		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	案内がきた研修には、そのつど職員の勤務調整を図りながら参加させ、職員研修には前向きで積極的である。また職員の質の向上に資する為に、職員がゆっくりとくつろげるスペースを確保し、休憩時間にはリラックスできる雰囲気確立している点は高く評価できる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症家族の会を始めグループホーム大分県連絡会などに加入していき、ネットワークづくり、勉強会などへの活動は積極的に行っている。全職員への質の向上には、施設あげて極力寄与しようとの思いが見受けられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前から職員が自宅に出向いたり、本人と家族の方に何度か遊びに来て頂いたり、また「泊まり」を体験して頂く事により、徐々に馴染んで頂きながら安心して利用して頂けるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事、炊事、の中で職員の年齢層も取り入れ家族の在り方を大切にし、日常生活の中で喜怒哀楽を共にし支えあう関係を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	幾つかの選択肢を提示し、その中から本人の希望に沿い又家族の方の意向も伺いながら思いや、希望の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	状態の変化や職員のきずきを記録し易い様に施設独自の記録表を作成しており、利用者、家族、医療機関、の意向も取り入れた、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1度の見直しを行い、又状態が変化した際には本人、家族の意向、かかりつけ医、訪問看護、他の医療機関の意見を伺いながら、計画の見直しをおこなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	馴染みの美容室への送迎、家族に代わり病院への送迎又買物等本人や家族の意向を大切に柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や医療機関へ状態報告、受診支援を行っており、受診後は家族に情報伝達をし合意を得ており、職員間では統一的支援が出来るよう、情報を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に重度化や終末期の対応についての説明をおこない、状況に変化が生じた時には家族、本人の意向を大切に、医療機関とも密に連携をとっており、方針等においても職員全員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対して、人として対等に向き合うと同時に、目上の人を敬う気持ちを管理者・職員が共有している。その上で物腰や口調等についてさらに学んでいきたいといった意欲がみられる。個人情報については、申し送りは事務室で行い、職員同士が生活の場において利用者の話をする時は必要に応じてイニシャルを使うように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭での生活を念頭に置き、日中の過ごし方はもちろんのこと、起床就寝、食事、入浴等どうしても時間が決められがちなことについても、なるべく利用者の気のむくままに過ごしてもらえるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お箸やお皿は自前のものを持ち込み、職員と一緒に食事をしている。職員が利用者に良く声をかける姿が見受けられた。食事の準備・配膳等は利用者と一緒にやって行っている。また、買物の日に旬のものを買ってきて季節感を出すように努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日の高い内は風呂に入らない人もいれば、1時間位かけてゆっくり入る人もいるように、入浴の時間帯や入浴時間を決めないで自由に入ってもらおうようにしている。入浴をしたがらない利用者に対しても週2回は入ってもらえるよう声かけに努め、入浴しない日は足湯・清拭をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに合った楽しみや役割を知るために、職員に対してとにかく利用者と話をするように指導し、そこから得た生活歴や各人の嗜好を反映できるよう努めている。レクリエーションについて利用者の要望を取り込んで行う一方、急遽外でゴザを敷いて日向ぼっこを行う等、季節・気候に応じたバリエーションをつけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「施設でない施設」という理念の下、外出も日常的に出たい時にいつでも出れるような体制をとっている。出先には職員が同行し、一緒に買物をして帰る等の取組みがなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が不穏な状態になりがちで、且つ職員が交代する夕方の15分位を除いて、施錠はしていない。職員は目を配り、利用者が外出する時は同行するようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練が実施されている。緊急連絡網を作成し、防災マニュアルも備えられている。2010年度より避難訓練の実施が決定した。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援						
	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常生活の場として、栄養管理より食べたいものを食べるといった点を重視している。塩分を控えめにしなければならない場合に味噌汁を薄める等できる範囲のことはやるが、特別なことはしないようにしている。定時にお茶の時間を設け、水分を補給できるような取組みがなされている。			
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり						
(1) 居心地のよい環境づくり						
	29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の壁には、行事の写真等様々なものが飾られている。窓を大きく、天井も高く取っているので自然の光が入ってきて明るい雰囲気である。各部屋の扉の色がそれぞれ違って判り易くする工夫がなされている。		
	30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで馴染んできたものを自由に持ち込んでもらって、その人らしい部屋になっている。プライベートを重視し、居室を踏み込めない領域として意識している。そのため利用者が持ち込むものは利用者に管理してもらう働きかけ、職員は利用者の能力に応じて掃除を手伝うといったスタンスをとっている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	優華グループホーム 戸次の里
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	大分市中戸次4287番地
記入者名 (管理者)	中川 差得子
記入日	平成 21年 2月 28日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>1, 基本は家庭である。</p> <p>2, みどりの介護(家庭的)をめざす。</p> <p>3, 介護者が楽しくゆとりのある生活を過ごしていなければ、十分な介護ができない。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念を事務所に掲示している。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>利用者、家族へ入居時に理念を説明し、運営推進会議、家族会でも協議している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>縁日会、もちつきをおしらせし、近隣者の来所、参加あり。近隣者からの昼食作り、除草、花植えの提案、来所あり。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会へのはたらきかけで、お祭り御輿がきてくれる。広報を包括支援センター、公民館へ配布している。</p>	<p>○ 老人会、自治会との交流</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	老人会と話し合う事が一番先とってます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	今後、評価を活かして、改善に取り組む。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	2ヶ月ごとの確実定期的な開催。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	運営推進会議以外の市担当者との協力。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	外部研修受講、ホーム内研修の取り組み。

